関西大倉中学校・高等学校
校長　古 川 英 明

2022(令和四)年度　学校経営計画及び評価

1 めざす学校像

全校一致のもと、誠実でやさしさと活力あふれる人間を形成する。

1　一人ひとりの個性・才能を生かし、知力・体力を育成する。

2　自ら考え、責任ある行動がとれる人間を育成する。

3　誠実で品性の高い教養のある人間を育成する。

4　男女・民族・ことばの違いを越え、互いの人権を尊重し、平和を願う人間を育成する。

5　自然に親しみ、自然とともに生きることが大切だと思える心を育成する。

ヒト・モノ・カネが自由に国境を越えて行き来するグローバルな波は、急速に進展し、社会も急激に変化してきている。その変化に対応する力は、学校生活から培われるもので、中でもコミュニケーション能力や協調性は、家庭だけにとどまらず、学校生活におけるクラスやクラブ活動の中で養われていくものである。単に、グローバル化に対応するだけではなく、グローカル（地域・社会への貢献、人との結びつき、人と人との信頼関係）をも重視する必要性がある。グローカルな人材とは、所謂、海外との橋渡し役や地域企業の海外進出を担い、世界に通用する能力をもった人材をさし、中等教育はそれらの力を養う上で、非常に重要な機関であり期間である。よってこれらに対応できるカリキュラムやプログラムを設定していかなければならない。その上で、急激な社会の変化に対応する力を身につけ、自分の進路を自分の力で開き、生徒自身が自己を律し、自立できる力をつけることを目標とする。

学びの変革が将来を変えることに通じる。

デジタル化の波に押された日本の教育は、大きな変革を迫られている。ICT教育の遅れを解決すべくGIGAスクール構想が進展する中、iPadをレンタルで中高全学年に導入した。それは、今までの知識偏重教育から、教師がすべきこと、所謂学びのあり方を変える必要が生じてきているからである。**教師がすべきことは、生徒に考える機会を与えること。先生が子どもの学びの伴走者になること。考え方の幅を広げ、生徒の能力を引き出し、伸張させ、人格形成を助長させる取り組みが、今後の教育の根幹となるからである。**また、**「STEAM教育」所謂「科学（Science）・技術（Technology）・工学（Engineering）・アート(Art)・数学(Mathematics)」の五分野を中心に、**日々の各教科活動の中で、語学力（コミュニケーション力、特に英語）、論理的思考や問題解決能力などを身につけさせることを実践していくことを目標とする。

〈課題〉

⑴　急激な社会の変化に対応するには、教職員の変化に対する自覚が必要であり、「ゆでガエル」「瓶の中の丸虫」になるのではなく、各先生方の教育力を高めて貰う必要がある。既存の体制や固定観念に捕われては、学校教育の変革並びに少子化の状況中で勝ち残れない。

⑵　財務の安定＝中学の志願者増と入学者増、高校の専願志願者の増加を図る。

中学においては、公立中学校の取り組みや他の私学（本校に入学させるメリットは何か）との差別化を図る。高校においても、併願校の取り組み以上の教育内容の充実を図らなければ、専願志願者増は望めない。

⑶　中学入学生徒の学力格差の是正。上中下三層の生徒が混在する現状では、各層の学力に応じた授業展開が必要であり、その対策を講じる。

「徳育」を教育の中核に据え、知・徳・体のバランスある人格を備えた、自律、自立できる人間力豊かな生徒を育成する。

2 中期的目標

1 疑問（なぜ）から納得（なるほど）へと学びの質の変化に対応した学力の育成を図る。

本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

ア 生徒のレディネスに応じた教育内容を踏まえ、「わかる授業、充実した授業および創造性を育成する授業」をめざす。

イ ICTを活用する教員の割合をさらに増やし、授業時にタブレットを導入し、授業水準の高度化を行う。

ウ 探究学習として、学習に興味を持たせるため、自分が興味あることを調べ、発表させることでプレゼンテーション能力を高める取組みを行う。

2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立を図る。

ア 学年・進路指導部が軸となり、総合の時間の担当者とも連携し、3年間、または6年間を見通したキャリア教育を行う。

イ 進路指導部主導の学問体感並びに外部講師を積極的に招くとともに、生徒による振り返り・発表の機会を増やす。

ウ 大学訪問を通して、生徒の進路への意識付けを行う。

エ 学業と共に、行事や部活動を通して、自身の興味や関心を寄せるスポーツや学問、文化などに親しみ成長の糧とする。

3. 学校全体としてグローカル人材に必要とされる英語運用能力（ﾘｽﾆﾝｸﾞ・ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ・ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ・ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞの4技能）の育成に取り組み、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。

ア 英語運用能力育成の為、資格習得の学習を促進する。

イ 他者共感能力・異文化理解能力・批判思考力・論理思考力などの力を育成する。

ウ グローバル人材を育成する海外研修プログラムを実施する。

4 安全・安心で魅力のある学校づくりのための組織の確立

ア 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制を充実させる

イ 保護者に対して積極的かつ効果的な広報活動を行う。

ウ 生徒理解の促進と、安心・安全な学校づくりのための体制の確立をめざす。

エ 保護者、地域関係者に対する生徒による校内発表の場への参加呼びかけを拡大するなど地域との交流を図る。

5 教員の授業力の資質向上に向けた取組み

ア 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートを行い、分析し、改善策を検討する。

イ 教員研修として複数回、人権研修・危機管理研修・教育相談研修などを行う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

【学校教育自己診断の結果と分析・学校関係者からの評価】

学校評価アンケートの結果と分析 ［令和4年12月］	学校関係者評価
保護者、生徒、教職員を対に実施。Web上での回答を行った。昨年度生徒への配信に不具合があったが、今年度改善したため回答率は上がった。生徒、保護者とも50～60％程度の回答率であった。アンケートについて、施設設備面は新校舎の建て替えの影響もあり評価が高かった。生徒の評価としては教員の授業内容の信頼についての項目が、昨年度の55％→75％へ改善した。ただ、高校生からの評価で、本校への入学を親戚、友人、知人に勧めることができる評価が50％を切る形になった。タブレットの活用については生徒、保護者とも肯定評価が70～80％と高かった。学校の雰囲気が良く、生徒が生き生きと学校に行くのを楽しみにしている項目について、保護者からの評価はほぼ80％と高かったが生徒自身の評価としては60％程度と差があった。任意の記述に関しては、生徒保護者とも全体の10％程度からの回答が	第1回(令和4年7月9日(土)) 第2回(令和5年2月18日(土)) 大学進学において、大学入試センター試験が共通テストに変更されたことについて、進学に関するこれからの対応がより大きく求められることになっている。過去には立命館大学との提携コースがあったが、現在は提携が解消され、学校としては京大、阪大、神大を中心とした国公立大学への進学を目指しての進路指導を行っているが、その目標を置く中でも基本的には生徒の希望に併せた進路指導が基本となっている。第1回の評価委員会の中では、上記の内容を踏まえつつ、高校時代に何を学び、将来に向けての取り組みをいかにしていくのかが議題の中心となった。学校としては、進学はもちろんのこと、生徒にあった、そしてより高いレベルでの進路選択ができるように取り組んでいくことを目標にすることを改めて確認した。またこの進学、進路に対する考え方や成果

あった。多かった項目としては保護者からの意見としては、進路についてもっと意識を持たせてほしい、もっと高いレベルでやってほしいと、教員によって差があるのではないかといった、授業や進路、教員に対しての意見と、バスについて日曜日に出してほしいや、本数や運行上への意見があった。生徒からは、バスについて、男女の乗車の仕方について様々な意見がでた。クラブ関係については、勉強を優先していない面があるのではといった意見があった。生徒・保護者からも校則という言葉が多く出てきた。校則が古い、厳しい、といった意見や、生活の中での意見が中心だった。施設面で専用道路の凹凸や、第二グラウンドの整備についての要望があった。教職員からのアンケートとしては、特色や委員会活動の評価が低かった。また、高校3年間の見通しを持った教育の評価については70％強の肯定評価に対して中高6年間の見通しを持った教育の評価については40％を下回る評価となり差があった。	が、私学である本校が生徒数を確保していくうえでも重要な要素となること、その部分をしっかりと外にもアピールしていく必要性があることも確認した。 第2回評価委員会では、生徒、保護者、教職員へ行ったアンケート結果をもとに意見を伺ったが、教員のアンケートへの回答率の低さが指摘された。本校に対しての生徒からの評価やバス運営について、また新制服や新校舎建設後の学内での評価について、アンケート結果が生徒たちへの還元につながるような取り組みを行うことを確認した。新校舎は図書館の利用率が上がったことが評価された。六貫教育について、中学校の募集が前年度を上回ったことはあるが、引き続き評価を高めていけるように内部での取り組みを見直して、関西大倉の伝統をより深く引き継いでいけるような取り組みが必要である認識を共有した。

1　疑問（なぜ）から納得（なるほど）へと学びの質の変化に対応した学力の育成を図る。

本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア　わかる授業、充実した授業及び創造性を育成する授業の推進	本校の生徒実態を踏まえ、学習到達目標の点検を行う。各教科共通テストレベルは確実にこなせるようにする。	教員の専門的知識や授業内容については一定の評価を得ているが、改善すべき点の意見も少なからずあるので、今後に生かしていきたい。
イ　ICTを活用する教員の割合を順次増やし、授業時にタブレットを導入し、授業水準の高度化を行う。	タブレットの活用例を共有し、教員間での ICT 教育に関するコミュニケーションを高めていく	生徒・保護者。教職員とものアンケートでは 8 割前後と高い評価を示した。より内容を充実させていきたい
ウ　探究学習として、学習に興味を持たせるため、自分が興味あることを調べ、発表させることでプレゼンテーション能力を 高める取組みを行う。	企業探究などの充実、授業時等でも発表の場を設けてプレゼン力の向上を図る。	中学生からの授業内での発表等での評価が高い。高校生でもこの評価が上がるよう探究学習を充実させていく必要がある。

2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア　総合の時間の担当者とも連携し、3年間、または6年間を見通したキャリア教育を行う。	経年の学習成績を一つにまとめ、進路ノートを活用し学習指導・進路指導に役立てる。	予定通り進路ノートの活用をすることができた。

イ　進路指導部主導の学問体感並びに外部講師を積極的に招くとともに、生徒による振り返り・発表の機会を増やす。	学問体感(国公立大学教員による出前授業)や教育機関からの大学進学に向けての講演を行う	学問体感や卒業生を招いての「卒業生に聞こう」や外部講師を招いての進路講演を行った。
ウ　大学訪問を通して、生徒の進路への意識付けを行う。	夏休みや冬休みの期間を利用して大学訪問を計画し、レポートの提出等を行う	コロナ禍のため外部訪問はできなかったが、大学の先生方を招いての学部学科別説明会を行った。
エ　学業と共に、行事や部活動を通して、自身の興味や関心を寄せるスポーツや学問、文化などに親しみ成長の糧とする。	学校行事の充実、学業と部活動の両立を行いやすい環境を整えていく。	コロナ禍でできなかった学校行事が、保護者の来校制限はありながらもほぼ実施することができた。

3　学校全体としてグローカル人材に必要とされる英語運用能力(ﾘｽﾆﾝｸﾞ・ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ・ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ・ｽﾋﾟｰｷﾝｸﾞの4技能)の育成に取り組み、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。		
中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア　英語運用能力育成の為、資格習得の学習を促進する。	英語検定の資格取得率の向上を目指す。	各学年目標取得級に至っていないものと希望者への実施を行った。
イ　他者共感能力・異文化理解能力・批判思考力・論理思考力などの力の育成する。	希望者を対象としてオンライン国際交流の導入、ディベート学習会を校内で実施する。	年間を通して、京都大学高大連携の野生動物初歩実習と、希望者を募り、8 月にPBL型オンライン国際交流プログラムに参加した。
ウ　グローバル人材を育成するプログラムを実施する。	本校との姉妹校である韓国善隣ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ高校へのホームステイ希望者に対して、韓国語や英語及び韓国の文化を学ぶ事前学習を行う。	本年度はコロナ禍の為中止
	六貫教育推進のなかで、ニュージーランド Upper Hutt College や Taita College において、テーマ学習、ケーススタディとしてホームステイ先でのトラブル防止につなげ、探究を深める	本年度はコロナ禍の為中止
	イギリスの伝統的パブリックスクールである Harrow School への夏季語学留学を希望者対象に2週間実施し、同校出身のOxford大や Cambridge 大学の学生と交流を行う。	本年度はコロナ禍の為中止

4 安全・安心で魅力のある学校づくりのための組織の確立		
中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア　保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制を充実させる	カウンセラー配置によって、教員間との連携ができ、迅速かつ適切な指導ができる体制を確立する。	担任、保健室、スクールカウンセラーが連携をとり、生徒への対応が行える体制を構築している。
イ　保護者に対して積極的かつ効果的な広報活動を行う。	学校行事などをHPでも紹介し、学年だよりを充実させる。	HPやメール配信、学年だよりの発行を適宜行っている。もっと行ってほしいという意見もあるので、取り組んでいきたい。
ウ　生徒理解の促進と、安心・安全な学校づくりのための体制の確立をめざす。	学校保健委員会・安全衛生委員会を定期的に開催する。その中で産業医（学校医）との連携も強化する。いじめ対策委員会が中心となり、学校生活アンケート等をもとに生徒のケアー体制を確立する。警報等発令時に加え下校時刻の変更時の緊急メール配信（ミマモルメ）の迅速な配信をはかる。 より生徒の安全性を高めるため、救急救命講習会を2回実施する。	学校生活アンケートは1学期、2学期にそれぞれ1度ずつ行い、教職員会議で分析し指導に活かしている。いじめの事象も対策委員会を即時開き解決に向けて方針を立てている。 救急救命講習を5月に、緊急メールテスト配信を9月に行った。メール配信については頻繁に行っており、この項目のアンケートでもほぼ100%に近い肯定評価となっている。救急救命講習は1回実施。
エ　保護者、地域関係者に対する生徒による校内発表の場への参加呼びかけを拡大するなど地域との交流を図る。	文化祭での地域関係者の参加や、部活動での地域への発表を行っていく。	コロナ禍により中止されたり、部来場人数を制限して行った。ラグビー部は「たんぼラグビーin 茨木」に参加した他、和太鼓部は、北千里ﾃﾞｲｵｽ GW 祭や茨木里山まつりにおいて演奏した。120 周年記念式典を地元のケーブルテレビで取り上げていただいた。

5 教員の授業力の資質向上に向けた取組み		
中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア　各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートを行い、分析し、改善策を検討する。	授業アンケートを7月と12月に実施予定。結果を分析し、改善策を検討する。教科ごとに授業見学、さらに教科を越えて教員相互授業見学と研究協議を行い、授業改善を図る。更に、全体研修会を行う。	予定通り授業アンケートを7月と12月に行い、分析と改善点について検討を行っている。11月に授業見学週間を設けた。
イ　年度の必要性に応じて、教員研修を複数回、人権研修・危機管理研修・教育相談研修を行う。	教員研修として、人権研修・ 危機管理研修・教育相談研修等を行う。 授業アンケート結果による教員研修を実施する。	4月と10月に生徒・保護者対応、8月にセクハラ・パワハラ、7月に熱中症対策、各学期ごとに PC スキル UP の教職員向けの研修を行った。